

地域農業の将来に関するアンケート調査 大郷町 大松沢

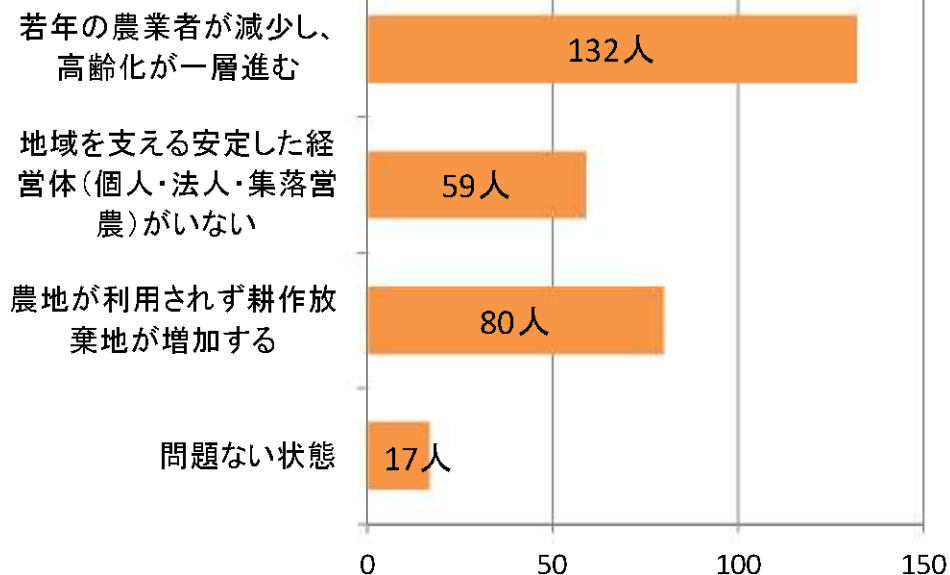
アンケート実施期間:平成25年11月1日～平成25年11月15日

対象者数 312

回答数 179

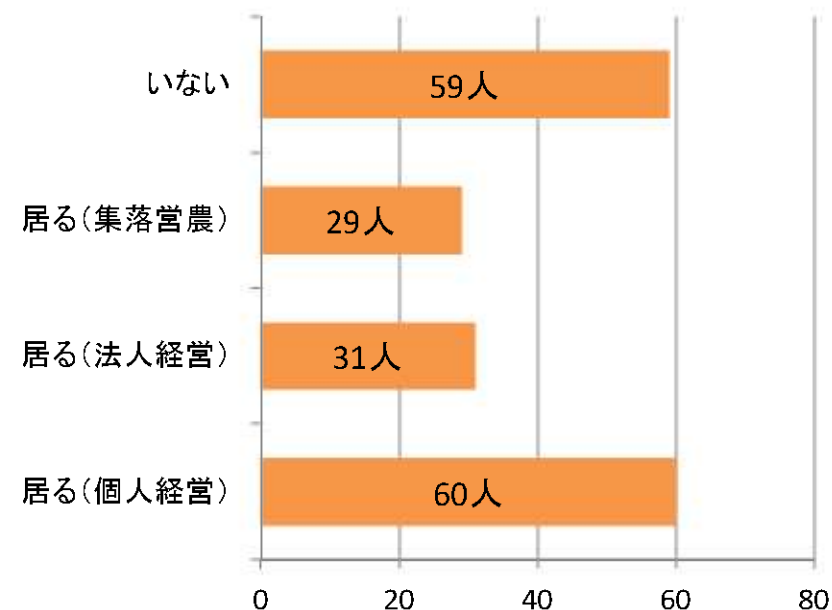
回答率 57.37%

1 あなたの集落・地域の農業(人と農地)は、放っておくと10年後にどのようになっていると思いますか



コメント:回答者の約94%がこのままでは10年後に若年農業者の減少、農業者の高齢化、耕作放棄地の増加などの問題が生じると回答しています。なお、全地区で上記のグラフのとおり順位で回答数が多くなっており、特に上町地区と下町地区以外の地区は問題ない状態と回答した方が少ない結果になっています。

2 あなたの集落・地域には、現在、中心となる経営体(個人・法人・集落営農)がいますか



コメント:大松沢地区としては上記の順位になっていますが、地区によって順位が異なります。各地区で一番回答数が多かったのは成田川地区と上町地区、下町地区で個人経営、上郷地区と上村地区、吉ヶ沢地区で中心となる経営体がない、江戸沢地区で法人経営となっています。各地区の農業事情や取り組み方が反映された結果になっています。

3-1 あなたの集落・地域の農業(人と農地)を持続可能なものとするために、今後どうしたらよいと思いますか

今後中心経営体を創出し、農地を集積するとともに青年就農者が参加したりする必要

65人

現存する中心経営体に農地を集積しそこに青年就農者が参加していく必要

99人

何もなくて良い

30人

0 50 100 150

コメント:全地区でほぼ上記の順位になっており、約85%の方が農業を持続可能なものにするためには、中心となる経営体に農地を集積する必要があると回答しています。

3-2 既存の中心経営体のうち集積対象として適当と思う経営体は

集落営農

51人

法人

60人

個人

31人

0 50 100

コメント:大松沢全体では法人、集落営農の順になっていますが、地区によって順位が異なります。成田川地区と上郷地区は集落営農と法人が同数で最も多く、上村地区と吉ヶ沢地区は集落営農、上町地区と江戸沢地区は法人、下町地区は個人が最も多くなっています。しかし、江戸沢地区以外は個人、集落営農、法人の回答数があまり差がない状況です。

3-3 今後創出する中心経営体の候補は

一般企業

9人

集落外の個人・法人

15人

集落営農

40人

集落内の法人

39人

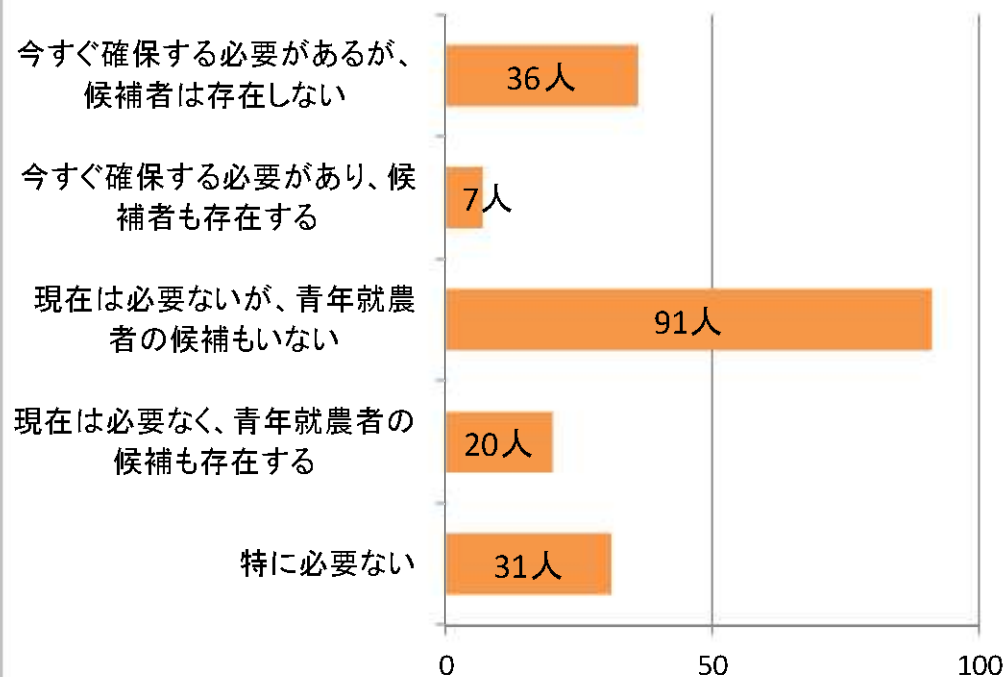
集落内の個人

23人

0 20 40 60

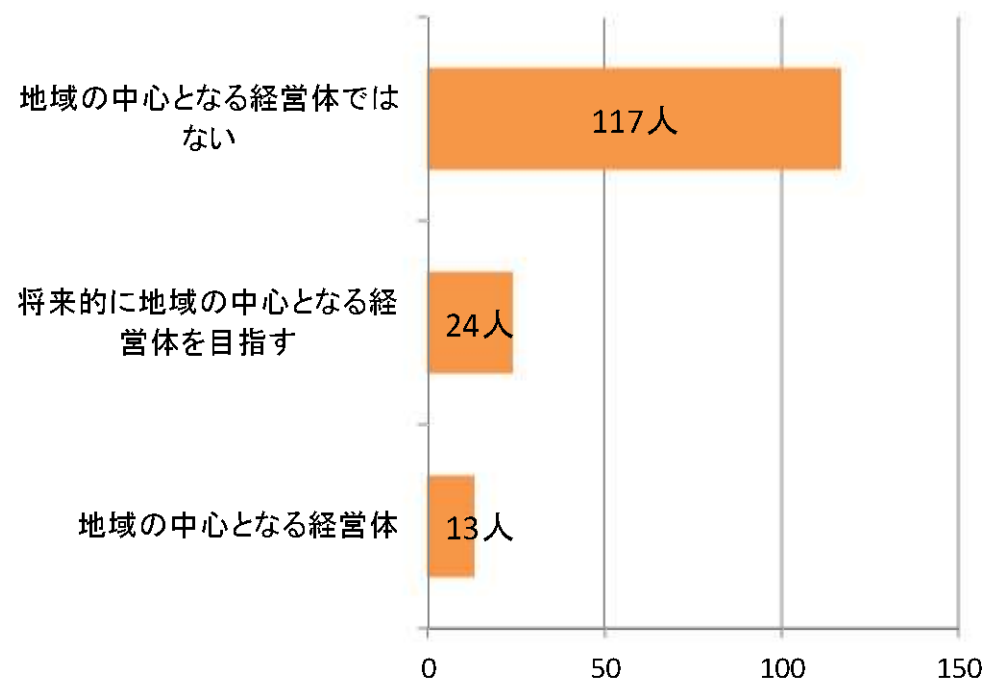
コメント:大松沢全体では集落営農、集落内の法人、集落内の個人の順となっており、約81%の方が集落内の経営体創出を求めています。地区別にみると多少順位が異なり、成田川地区は集落内の法人、上郷地区と上町地区、下町地区は集落営農、上村地区は集落内の個人、吉ヶ沢地区は集落営農と集落内の法人が同数、江戸沢地区は法人が最も多い回答になっています。

4 集落・地域に青年就農者が入ってくる必要があると思いますか



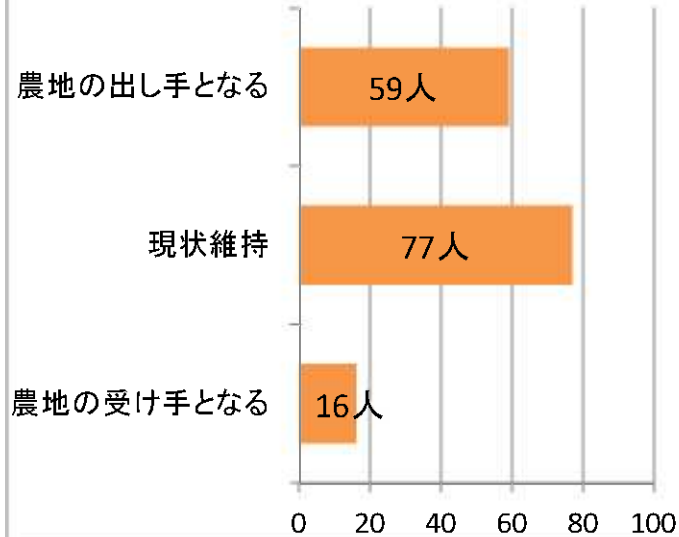
コメント: 回答者の約83%が青年就農者は必要と回答しており、青年就農者が今すぐ必要と回答した方は約23%、将来的には必要とした方は約60%になっています。現在も将来的にも青年就農者の候補がいないと回答した方は約69%で、後継者不足が懸念されます。各地区で青年就農者の候補者は少ないものの存在するという回答がある中で、成田川地区は1名、吉ヶ沢地区ではいないという結果になっています。

5 あなた自身の経営は、地域の中でどのような位置づけだと思いますか



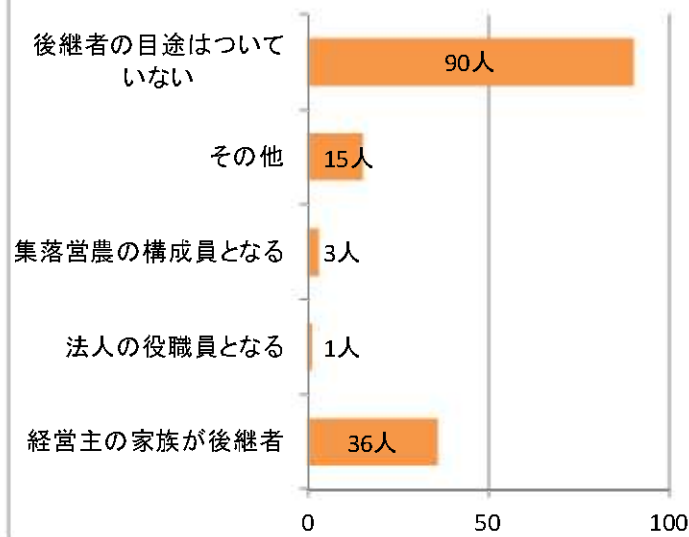
コメント: 回答者の約76%が地域の中心となる経営体ではないと回答しており、全地区でほぼ同じ順位になっています。しかし、将来的に地域の中心となる経営体を目指すという回答者と地域の中心となる経営体であるという回答者の合計の占める割合は成田川地区で約22%、上郷地区で約27%、上村地区で約30%、上町地区で約42%、下町地区で約26%、吉ヶ沢地区で約30%、江戸沢地区で約10%と地区によってばらつきが出ています。

6-1 あなた自身の今後の経営 (農地に対する考え)は



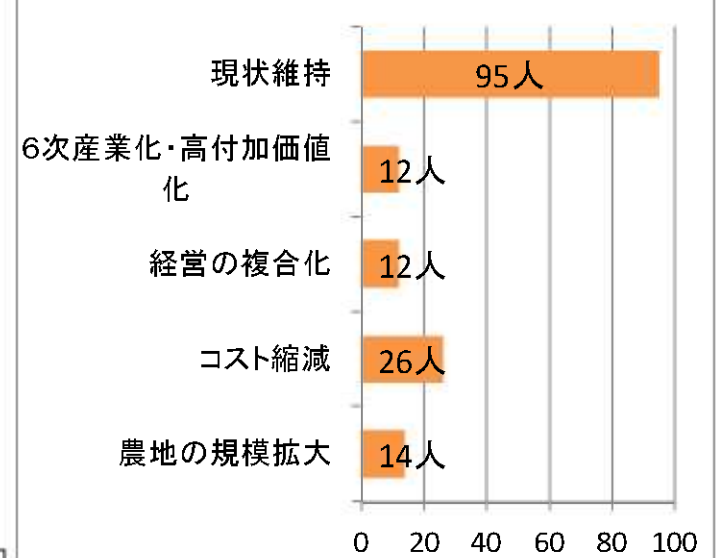
コメント: 出し手は成田川地区では10名、上郷地区で10名、上村地区で8名、上町地区で6名、下町地区で7名、吉ヶ沢地区で5名、江戸沢地区で13名。受け手は成田川地区で2名、上郷地区で1名、上村地区で4名、上町地区で3名、下町地区で2名、吉ヶ沢地区で2名、江戸沢地区で2名となっています。

6-2 あなた自身の今後の経営 (後継者に対する考え方)は



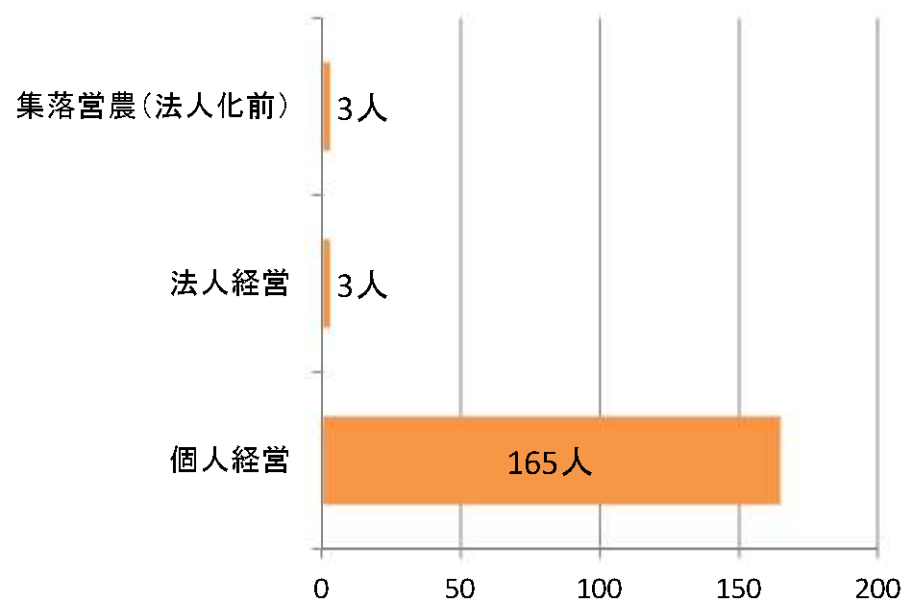
コメント: 全地区とも後継者の目途がついていないが最も多く全体の約62%、続いて家族が後継者の順になっています。法人の役職員や集落営農の構成員という回答は少なく、その他は法人や生産組合等に任せるという回答でした。

6-3 あなた自身の今後の経営 (今後必要と考える取組)は



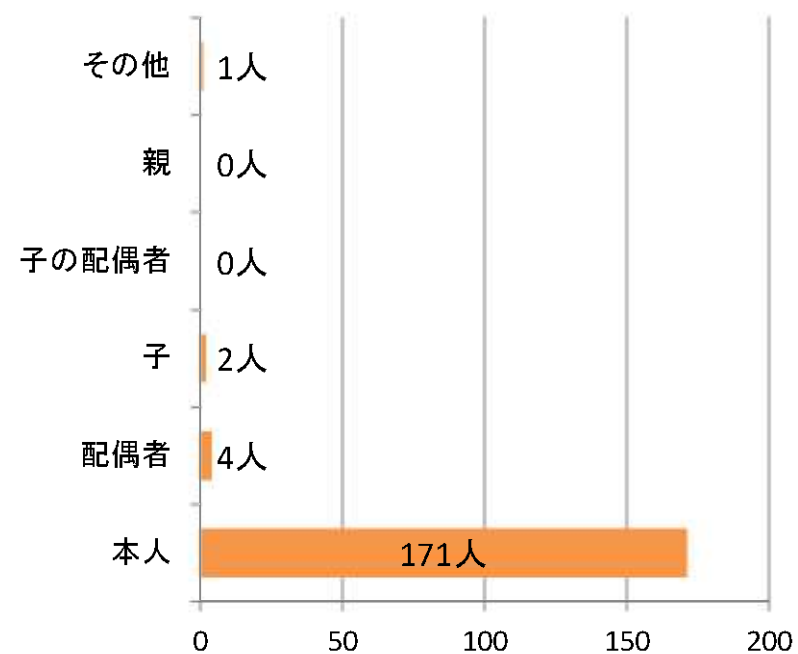
コメント: 全地区で現状維持が最も多く、続いてコスト削減の順になっています。経営規模拡大と回答したのは成田川地区で3名、上郷地区で2名、上村地区で2名、上町地区で2名、下町地区で2名、吉ヶ沢地区で2名、江戸沢地区で1名でした。

7 あなたの経営の種類



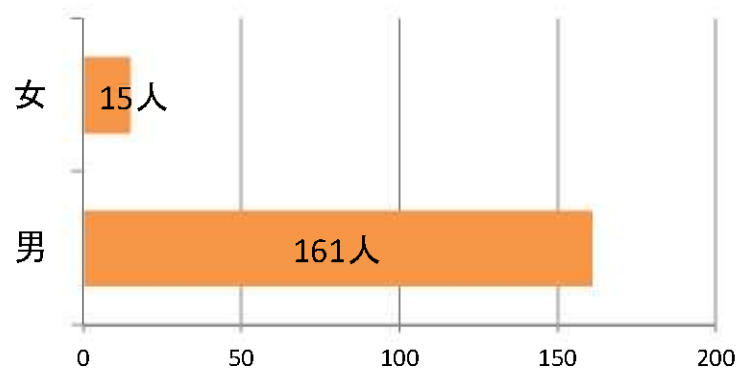
コメント: 大松沢全体では約96%が個人経営です。集落営農と回答したのは、成田川地区で1名、上町地区で1名、下町地区で1名です。法人経営と回答したのは、上町地区で2名、江戸沢地区で1名となっています。

8 経営主との続柄



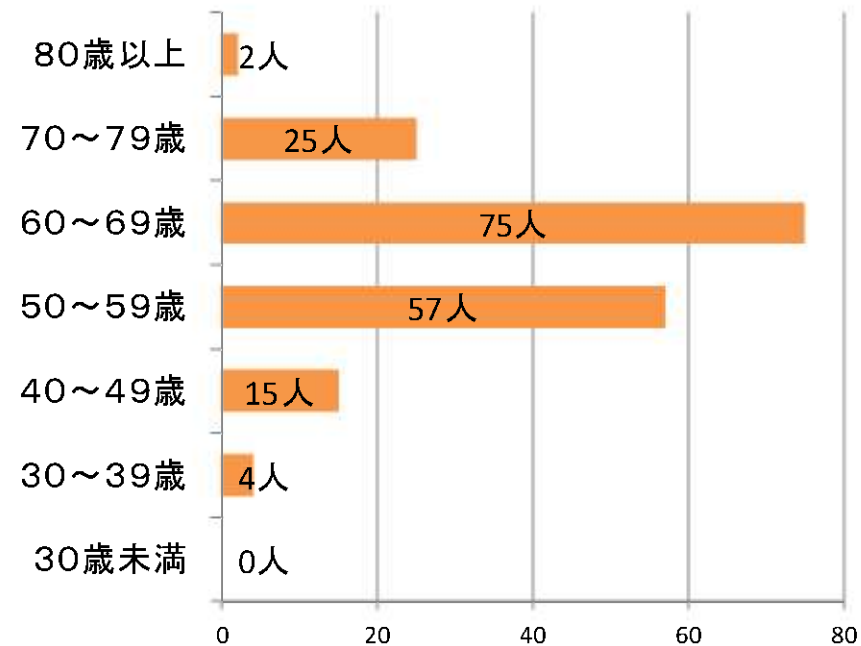
コメント: 回答者の約96%が農業経営者本人です。続いて配偶者、子の順になっています。

9 性別



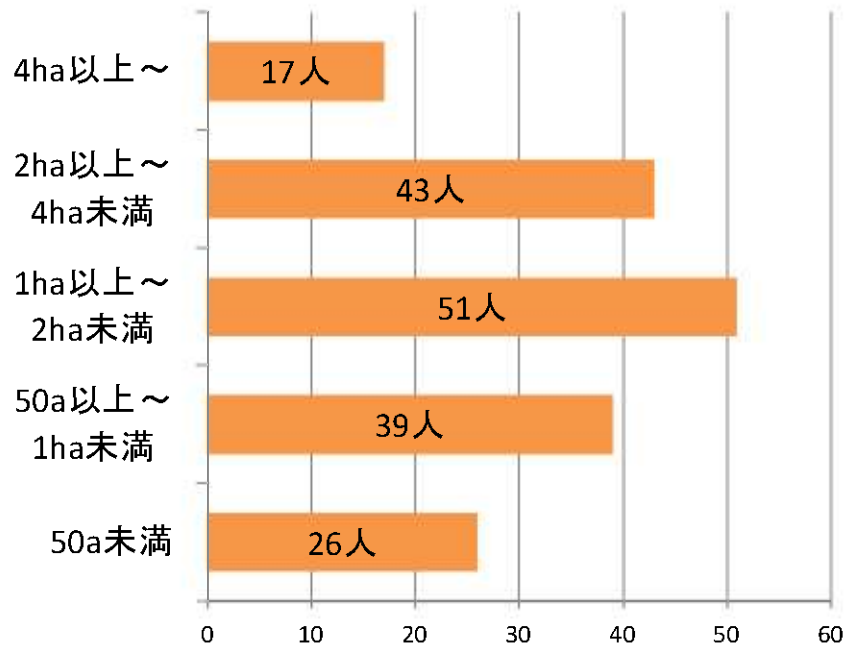
コメント: 回答者の約96%が農業経営者本人であったため、男性の回答が多くなっています。

10 年齢



コメント: 全地区で60~69歳の回答が最も多く全体の約42%、続いて50~59歳が32%、70~79歳が約14%となっています。回答者の約96%が農業経営者本人であり、経営者の高齢化が進んでいます。60歳以上の割合は約57%になっています。

11 経営規模



コメント: 大松沢全体として最も多い経営規模は1ha〜2haで全体の約30%、続いて2ha〜4ha、50a〜1haの順となっています。1ha未満の割合は全体の約37%となっています。

意見

成田川地区

- ・平成18年より水田全面委託しており畑だけの農業です。現状維持から耕作放棄となる。
- ・集落では、まだまだ個人的にやっているの、集落営農できない、若い人はいるが、やる気がない。

上郷地区

- ・問6-3について、該当なし。農地の放棄か売るしかない。
- ・米価が安く、意欲が出ない。
- ・我が家には後継者はいない。今後の営農など何も無い。
- ・部落には就農営農なく今後の計画もない。

上村地区

- ・いろんな情報が在り過ぎ戸惑う、5年先の目標が欲しい。
- ・このアンケートの内容こそがあまりにも現状をみていないと思われます。複合経営の複こそが水田農業なのです。兼業農家の方々もそう思われているとおもいます。
- ・専業農家においては、主たる事業を中心に雇用を考え法人化し、余力で農地を守っていくという逆の発想が必要かと。
- ・この事業現実味も最終的なメリットもなにも無い。
- ・地域という考え方から脱皮しないと小規模農家(10ha未満)ほど大変になると思う。

上町地区

- ・個人・法人の大規模化は大切であるが、稲の乾燥に当たっては、周辺の家等に配慮すべきと思う(乾燥機の問題)。
- ・法人化を進めた場合、ビニールハウスが必ず出てきます。問題はそうする場合、農地を土盛りして、ビニールハウスを建てますが、境の所等、草刈等の管理がまずい所が見られる。したがって、農業委員会では許可だけでなくその後の指導が大切である。

下町地区

- ・生産コスト上がっているが米(主食)の価格が下がるだけ。今後不安で子供達に農業をついでくれとは言えない。
- ・これから高齢のため頼みたいと思っている。畑の方も多いので一部荒らしているところもある。
- ・集落営農がうまく機能していない?? 集落営農に代わる施策が「人・農地」なのか?と思わせられる。人・農地プランは1経営体20~30haの規模にすれば問題が解決すると思っていないか?これは農家を減らす施策で、特に農地集積協力は離農奨励金と言われてもしょうがない。集積したら、機械が減る、人が減る。(将来)家が減る、集落が消える?(草刈りは減らないなあ) 食料、農業、農村基本法の「効率的かつ安定的な…」とは、労働時間が他産業と同等で、同等の所得を確保できる農業経営であるが、人・農地プランで、それが実現できるとは思わない。大いに疑問である。